

大阪は曇りのち晴れか
大相撲三月場所観戦メモ

なぜか昔から「荒れる大阪場所」という言い伝えがある。今年はどんな三月場所になるのだろうかと思いつつ初日を迎えたのだが、早くも暗雲が立ち込めるようなスタートになった。「曇りのち晴れ」となることを願い、まずは序盤の五日間をじっくり観察することから始めることにした。

●3月12日：序盤の印象（五日目までの景色）

成績	横綱・大関	関脇・小結	平幕
5勝		高安	隆の勝
4勝1敗	豊昇龍	霧島	平戸海・琴勝峰・正代・豪ノ山・朝紅龍・朝白龍

序盤が終わって上表のような結果になった。まだ三分の一の日程が終わったばかりなので、このデータが終盤を決するとは言えないが、戦国時代と言うよりも、群雄割拠・一触即発の鎌倉時代以前の状況かもしれない。

五日間の相撲を細かく見ていると、高安・隆の勝に勢いを感じる。高安は自信をもって相手の動きに対応している強さが感じられる。攻めの形や守りの形についていくつもの引き出しを持っていて、状況に応じて様々な対応ができていくように感じる。ベースになっているのが、常に相手に前進圧力をかけていることだろうか。持病の腰痛という爆弾を抱えているので、どこまで行けるだろうか心配もあるが。高安とともに目立つのは隆の勝、立ち合いの低い腰の構えから繰り出す突き押しが効果的に働いており、無駄なく相手に力が加わっていて勢いも感じる。全盛期の相撲ぶりに似てきた感じがする。この二人の次に目をひくのは、霧島の落ち着いた取り口と平戸海・豪ノ山のはつらつとした勢い。序盤五日間の殊勲賞は藤ノ川、技能賞は霧島、敢闘賞は高安というところだろうか。

この表から誰かが抜け出すのか、それともまだまだ混戦状態が続いて、「次の表」が現れるのか？

●3月15日：折り返し点の景色（中日）

成績	横綱・大関	関脇・小結	平幕
7勝1敗		霧島	隆の勝・琴勝峰・豪ノ山
6勝2敗	豊昇龍	高安	

中日までに全勝力士はいなくなってしまう。しかも横綱・大関はその中にいない。

こういう状況は「荒れる三月場所」とは言えない。「乱れた三月場所」と言った方が合致するかもしれない。

相撲内容を中心に見ると、霧島・高安が一步抜け出している感じで、その後を隆の勝・豪ノ山が迷いのない自分流の相撲で淡々と走っているという景色になっている。

中日に霧島・高安戦が組まれてしまい、このバランスが崩れてしまった。上位陣が星を伸ばせない今場所を盛り上げてきた霧島と高安に接戦を続けさせた後に、終盤で直接対決を組めば興行効果も上がっただろうに、無粋で知恵のない取り組み編成を考えたものだ。

結果として、中日で表のような状態になってしまった。中日で締めて見れば、殊勲賞=熱海富士、技能賞=霧島、敢闘賞=豪ノ山というところだろうか。

●3月17日：中盤で見た景色（十日目まで）

豪ノ山が朝紅龍をはたき込みで破り1敗を守ったが、立ち合いの鋭い攻めがあったからこそその取り口で、十日目まで来てまだ光る「豪ノ山の相撲」だった。霧島とともに賜杯争いのトップを堅持している。

成績	横綱・大関	関脇・小結	平幕
9勝1敗		霧島	豪ノ山
8勝2敗	豊昇龍		琴勝峰

霧島は落ち着いた取り口で、自分の実力を自然体で表現しているように見えてきた。十一日目で霧島・豪ノ山戦が組まれた。十三日目か十四日目まで静観すれば、もっ

と面白くなると思うのだが、ここでまた「星のつぶしあい」だけを狙って、興行効果を考えない割りの組み方がっかり。

●3月18日：十一日目を終わって

成績	横綱・大関	関脇・小結	平幕
10勝1敗		霧島	
9勝2敗	豊昇龍		豪ノ山・琴勝峰

本日の目玉は、霧島と豪ノ山の直接対決。豪ノ山の果敢な攻めに冷静に対応した霧島に凱歌が上がった。

琴勝峰は安青錦の低い立ち合いを受け止めた後で叩き落として2敗を堅持。何やらポリシーのはっきりしない取り口だった琴勝峰が、いつの間にか賜杯争いに勝ち残った。安青錦の今場所の相撲は、低い姿勢を強引にこじ開けるように崩される取り口が多かったせいか、「低い姿勢を保つ時の重心の位置」が狂ってしまったようで、前に落ちることも目立ってきた。単なる重心位置の狂いだけなのか、足腰のどこかに不具合が出ているからなのか、わからないが・・・。

●3月19日：十二日目

前半の取り組みは、あまり覇気は感じられなかったが、朝紅龍が宇良を破って勝ち越しを決めた一番は見応えがあった。さほど大きくもない体格で、全力を尽くして、速く・巧みに相撲を取る朝紅龍は、藤ノ川と並んで「爽快な相撲」の双壁である。

琴勝峰は義ノ富士を軽くあしらって二敗を堅持。琴櫻は豪ノ山の直進相撲にあえなく押し出されるにちがいないと思っていたら、何と逆に押し出して勝ってしまった。土俵を降りた豪ノ山の表情が印象的だった。これからもっと強くなる予感がする表情だった。

霧島は、激しい攻防の末、やや半身で食いつく豊昇龍を腰に乗せた上手投げで葬った。ズームアップ

成績	関脇・小結	平幕
11勝1敗	霧島	
10勝2敗		琴勝峰

された霧島の表情は、自信と満足感にあふれており、残り三日間の展開が想像できた。優勝争いは霧島と琴勝峰の二人に絞られ、先頭の霧島がやや有利か、という状況になった。

●3月20日：十三日目

成績	力士名
12勝1敗	霧島
11勝2敗	
10勝3敗	豊昇龍・琴勝峰

霧島は王鵬を落ち着いてさばいて1敗を守ったが、琴勝峰は豊昇龍に叩きこまれて敗退。これで、霧島の優勝が濃厚になった。

新入幕の藤青雲が9勝目をあげ、入幕二場所目の朝白龍も9勝。どんどん若い力士が上がってきて活躍するようになったのは素晴らしい。もたもたしていると置いていかれる可能性がある。

●3月21日：十四日目

朝紅龍の澁漑とした取り口で、幕内の土俵が始まった。藤ノ川は平戸海を、「見事!」と言いたくなるようなすくい投げで裏返しにして、7勝7敗まで漕ぎつけた。この二人には何か賞をあげたい。

そして、本日のお目当ての、結び前と結びの二番になった。

大方の人は、「今場所絶好調の関脇霧島が、今場所絶不調の大関安青錦を引きずり下ろすことになるのではないか」と、心配したに違いない。ところが、軍配が返ってみれば、安青錦が今場所最良の取り口で霧島を転がしてしまった。これで霧島の優勝決定は明日に持ち越されたように見えたのだが、

成績	力士名	豊昇龍が、琴櫻の外掛けで引っくり返されてしまい、霧島の優勝が決定してしまっ。今場所の豊昇龍は粗雑な相撲が多く、肝心な場面で意外な動きに出て墓穴を掘ることが多かった。
12勝2敗	霧島	
11勝3敗		

●3月22日:そして千数楽

霧島は昨日の土俵で足を痛めていたのかもしれない。琴櫻に簡単に敗れてしまい有終の美を飾ることはできなかった。序盤から落ち着いた土俵が進んでいた霧島に、他の上位力士にはない安定感が見えていたので、私見としてはほぼ予想通りの結末と言える。

「私が選ぶ今場所の三賞」は、殊勲賞=霧島、技能賞=藤ノ川、敢闘賞=朝紅龍・豪ノ山と出た。

●地位別成績分布

勝ち越し下力士だけを対象として、地位別成績分布をまとめて見た。

勝敗	横綱・大関	関脇・小結	平幕
12勝3敗		霧島	
11勝4敗	豊昇龍		琴勝峰
10勝5敗	琴櫻		豪ノ山・藤青雲・千代翔馬・朝白龍
9勝6敗		熱海富士	隆の勝・一山本・朝紅龍・錦富士・金峰山・琴栄峰
8勝7敗			若隆景・藤ノ川・正代・朝乃山・御嶽海
勝越者割合	50%	50%	47%

●安青錦の今場所

安青錦は千秋楽に豊昇龍に敗れて負け越しが決定。まだ若いので、勢いよく駆け上るよりも、ここらで挫折・再起動があった方が、「結果として収穫が多い」ように感じる。私の見解としては、これで良かったと思う。

NHKのアナウンサーや新聞記者の語り口は、鼻に突くものだった。場所前から派手に騒ぎ立てておき、いざ負けが込んでくると「これですべてが終わった」かのような語り方で、「只々騒ぎ立てていただけ」のように見えた。彼らは今までにもこうして何人かの力士を痛めつけてきた。

近い将来、さらに一皮むけた安青錦が登場するに違いないと思っている。

●再び大関昇進騒動

関脇霧島についても、最後に尻つぼみの12勝3敗で終わったにも関わらず、場所後の大関昇進が論議され始めた。規則があっても、柔軟に適当に解釈して、いい様に運用してしまうなら規則はあっても意味は持たない。12勝3敗と言う高レベルとは言えない優勝成績で、そこまでの必要があるのか。

「来場所10勝以上であれば昇進」というのならわかるが、ちよいとばかり疑問が残った。

以上